

平成27年第11回教育委員会会議

平成27年8月19日

午後 1時30分 開会

1 開会宣言

○葛西教育長 ただいまから平成27年第11回教育委員会会議を開会いたします。

会期は本日限りといたします。

本日の会議の欠席者を教育総務課長から報告願います。

○松岡教育総務課長 図書館長が欠席です。

○葛西教育長 傍聴の方はお見えですか。

○加藤教育総務課主幹 本日、お一人、傍聴の方がいらっしゃいます。

2 会議録署名者の決定

○葛西教育長 それでは、会議録署名者の決定に移ります。

お諮りいたします。

本委員会の会議録署名者として、杉浦委員と松崎委員にお願いしたいと思いますが、ご異議はございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 ご異議がないようですから、提案どおり決定いたします。

3 議事

(1) 協議

1 新教育委員会制度移行に伴う対応について

○葛西教育長 それでは、これより議事に入ります。

本日は、協議事項2件、議案2件、報告事項4件ですが、議案第29号及び報告事項については市議会8月定例会月議会に関する案件、議案第30号については人事案件であることから、非公開にて審議したいと思います。委員の皆さん、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 ご異議がないようですから、後ほど非公開にて審議いたします。

それでは、協議事項の新教育委員会制度移行に伴う対応について、説明をお願いします。

○松岡教育総務課長 会議案の1ページと、別紙で地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律、27年4月1日施行というA3の資料をお開きいただきたいと思ひます。地教行法の改正によりまして、ポイントが1から4までございまして、新教育長の設置や、午前中にご出席をいただきました総合教育会議を設置して、ポイント4で大綱を首長が策定するということを進めてきてございまして、ポイント2で、教育長へのチェック機能の強化と会議の透明化ということが挙げられてございまして。四日市市におきましては、これまでも会議の透明化等でいろいろ情報発信をしてきたところですが、今回、ご説明申し上げようとするのが、会議案の1ページでございまして、こちらをごらんいただきたいと思ひます。

今回、新教育委員会制度への移行に伴いまして、教育委員会会議の透明化や、教育長へのチェック機能の強化、それから、会議の審議の活性化に向けた取り組みを行うということで、これまで以上に開かれた教育委員会会議の運営を目指していこうとするものでございまして。

まず、会議の透明化に関する対応といたしまして、1の(1)ですが、これまで会議録につきましては、確認後、委員の皆様方に署名をいただいておりますが、これを今後はホームページにおいて公表していきたいということを考えてございまして。

(2)ですが、会議の後、会議録の公表とあわせて、会議資料と会議の中でどういった議論が展開されたのか、こういったことを簡潔にまとめて、その概要をホームページへ検討していきたい、そういうことを検討していこうと考えてございまして。

(3)ですが、会議の傍聴を促すために、会議案内の際に議題を出しているところですが、その議題がどういう内容のものかということの具体的な議事内容を付記することで、より会議の傍聴を促進するようなことを進めていきたいということを考えてございまして。

それから、2のチェック機能の強化に関する対応でございまして、(1)をごらんいただきますと、現行の事務委任規則、これは3月20日に規則改正をいただいたところですが、(1)の①から③のところ、主要施策の成果や重点目標の達成状況、これは点検・評価報告書なりで報告をする。それと、教育委員会が行った行政処分のうち重要なもの、これを年1回、教育委員会に報告することとしております。議論された内容を確実に教育施策に反映することで、ここで教育委員によるチェック機能の強化をさらに強めていきたいというふうなことを考えてございまして。

そのため、これまでも学校現場を訪問していただくことがあったんですけども、より

的確に学校現場の現状、それから課題を把握できるように、学校現場の視察を行っていただく機会をこれまで以上に増やしていただくということで、学校現場の現状をつかんでいきたいということを考えてございます。

こういったことを含めまして、今回の新教育委員会制度への移行に伴う教育長へのチェック機能の強化と会議の透明化、これを推し進めていきたいと考えてございます。

あわせて、3でございます。平成25年の際に定例会運営の改善、活性化に向けた取り組みを示したものがございます。議案の適正化、議案資料の改善、会議の効率化、これは資料2ページですが、これを再確認しまして、これに沿った形で会議の運営もより改善して、新教育長のもと、教育委員会を円滑に進めていこうということでございますので、1ページの1、2についてご承認をいただくようなことができれば、今後の教育委員会活動の中で随時こういったことを取り入れながら進めていきたいと考えてございますので、ご意見をお願いいたします。

○葛西教育長 提案がございましたが、いかがでしょうか。

○加藤委員 ほんとうにありがたいことで、こうやっていただくのはいいことだと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。小さいことですが、大きな2番のチェック機能の強化に関する対応の文章の書きぶりで、ちょっと述べさせてもらいますと、まず、(1)の最後の終わり方が、これらを教育委員会に報告し、議論された内容を確実に教育施策に反映させることで云々となっておりますが、例えばいきなりチェック機能云々とこなくとも、これをするによりシステムを充実することで、結果としてチェック機能の強化につながるという表現がいいのではないかなと思いましたが、それでいくと、次の(2)も、上記のチェック機能強化のためというのを削除して、教育委員がよりの確に学校現場の現状や課題を把握し、例えば教育長と情報共有ができるように、必要に応じて学校現場の視察等を行うというふうに書いていただいたほうが、チェックということではなくて、結果としてそれがチェック機能の強化につながるという表現がいいのではないかなと思いましたが。

だから、(2)も、学校現場の現状や課題を把握して何をするのかといったときに、やっぱり教育長と情報共有するというので、よりの確にチェックも働くわけですし、教育長の思いも我々にも共有できるという、そういう表現がいいのかなと。

○葛西教育長 いかがですか。

○渡邊委員 いいと思います。改善になると思いますね。

○葛西教育長 実際に教育委員に学校や子どもたち、あるいは教員を見ていただくことによって、四日市の教育委員会が議論していることがどのように子どもたちに浸透しているか、それから、まだまだこれはできていないというような情報を私と共有する。私と共有することは、それは必ず事務局にも伝えて、課題としてどう解決していくかとなりますので、システムとして充実していくということになるのかなと思います。

○加藤委員 チェック機能が目的ではなしに、それを強めることによって、やっぱり教育を充実していこうという、あるいは適切な教育を行いましょうということにつながりますので、そういう書きぶりのほうが響きがよろしいかと思います。

○渡邊委員 それから、1の(1)のところで、委員署名後、ホームページにおいて公表するとありますが、署名をするのは、かなり会議から時間がたっていると思うんですよ。そうすると、公表はおくれると。それでいいのかということですよ。ですから、(2)のところで、概要版のホームページ掲載は、会議録の公表とともに掲載を検討するんですけど、タイムリーではないといいますか、おくれるということは、趣旨からいうといかがかなという気はするんですよ。

○杉浦委員 ただ、例えば議題の中でも非公開の案件がありますよね。なので、公開案件と非公開の案件と例えば分けて公開の時期をずらすというようなことが可能なんですか。

○渡邊委員 どんな会議でしたということ公表するということですからね。どうなんですかね。

○葛西教育長 タイムリーに公開するというのと、それから、公開できるものと非公開のもの、それを区別する。非公開も時間がたてば公開できるものもあるだろうし、そのあたりの考え方はどうですか。

○松岡教育総務課長 非公開のものについては、原則公開をしない。時点が経過をすれば公開するものについては、その時点を経過後、公開になっていくということですけども、ただ、それについても、会議録の作成については、皆様がしっかりと議論をいただいたことをきちっと会議録に残していくと。その会議録の作成のためには一定の時間が必要となってくるわけですね。そうすると、現状で約1カ月程度かかるというところがありますが、それを早めるというのはなかなか難しいところがあるかなと思います。

それと、(2)の議論の内容を簡潔にまとめたところは、委員おっしゃるように、会議録の公表より前でもいいのではないかという考え方に変えてもいいのかなとは思いますが。

- 渡邊委員 概要版なら早くつくれるということはありませんよね。
- 葛西教育長 会議録については、これは一言一句ということですので、かなりこれは時間を要する。一方、会議の内容の概要については、これはやっぱりタイムリーに公開していくべきだということですね。
- 加藤委員 最大でA4版1枚ぐらいの量で。
- 渡邊委員 そういうイメージですね。
- 加藤委員 誰がどういう発言をしたかではなく、どんな話題が出たのか、どんなことが決められたのかというところでいいと思います。
- 渡邊委員 それならタイムリーな内容でいいですね。
- 加藤委員 だから、もし公開していく場合のホームページも、会議録のホルダーはホルダーでずっと残してもらえば、あとの概要版は、その都度アップしてもらおうというのがいいのかなと思いますね。ただ、事務局の方は大変ですね。
- 松岡教育総務課長 議題を提案する課がございますので、出席は担当課長だけなんですが、場合によっては担当係長や担当者が出席をさせていただいて、その内容を受けとめてまとめるということを考えてございます。
- 加藤委員 何十字以内という、それぐらいの枠を決めるといいですよ。
- 松岡教育総務課長 ある程度まとまった形で示させていただきたいと思っています。
- 葛西教育長 この件につきましては、これでよろしいでしょうか。

## 2 第3次四日市市学校教育ビジョンについて

- 葛西教育長 それでは、第3次四日市市学校教育ビジョンについて進めていきたいと思ひます。説明をお願いいたします。
- 吉田教育監 前回ご指摘いただきましたことを中心に修正を加えた第3次四日市市学校教育ビジョン案という資料を配付させていただきました。

修正箇所につきましては、事前に印を打たせていただいたり、A4判1枚で主な変更点ということで資料を配らせていただひています。

まず、前回のご議論の中で、ビジョンの策定に当たってはという部分での趣旨、こういうところの書きぶりを変えていったほうがいいのではないかとひを伺ひました。特に、大綱等との位置づけについてのものがよくわからないというご指摘を受けましたので、その部分は削除をさせていただくなど、2ページ、3ページにまとめさせていただいたと

ころです。

それから、4ページから7ページにつきまして、特に、6ページの朝食を食べていますか、あるいは7ページのPTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれていますかなどのことを記載させていただいて、図を挿入させていただきました。

特に、3、基本理念のところにおきましては、本市の問題解決能力のことについての言葉の使い方、意味がよくわからない、はっきりしないところがあるのではないかというようなご指摘いただいておりますので、そのことについても、社会人になっても通用する問題解決能力の向上を図って、「生きる力」、「共に生きる力」へつなぐことを記載させていただくとともに、関連として、11ページの図が、以前はらせん状のような形のものだったのを、今回は四日市市が進める教育の基本的な考え方というようなまとめた図に変更させていただいたというところがございます。

それに伴って、目指す子どもの姿のところも先に説明にしておりましたが、変更をかけたということがございます。

5、施策の体系、9ページから11ページですが、ここも今説明させていただいたように、図の変更や、基本目標の2、豊かな人間性の育成のところ、四日市が今まで第1次、第2次で大事にしてきた「共に生きる力」という部分で、前はコミュニケーション力という言葉だったんですが、やっぱりこれは正しくはコミュニケーション能力だろうということで、豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成という形で示させていただきました。

ただ、13ページの成果指標の中段のところ「豊かな人間性の育成」のままになってしまっておりまして、「豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成」という形で修正をかけさせていただきたいということとともに、ここにコミュニケーション能力の育成が入ってきますと、それに伴う成果指標が必要になってきますので、これを考えて加えたいなと思っています。ただ、今日は、具体的に全国学力・学習状況調査の結果、本市の子どもたちの状況を見て、どれが一番ふさわしいかというところまで具体的にご提示できませんが、ここは修正をかけていきたいと思っております。

前回お話いただいたのは、13ページのところまでの部分だったと思います。その後の基本目標1から基本目標6までの48ページのところまでについては、施策をいろいろ目標に準じた形で進めさせていただいているところですが、今日の午前中の総合教育会議の中で、ご議論いただいた教育大綱の素案の中の1、2、3、4、5、のうち4の都市の特徴を生かした四日市ならではの教育の推進については、1ページ特出しという形で一番

最後にまとめるというようなこと、それから、市長から、せっかく教育大綱をつかって、その具体的な施策について教育ビジョンがあるのだったら、柱立ての部分で整合をとってもらうようお願いしたいという依頼がございました。この部分については、今日の午前中のことですので、そこまでは対応し切れませんでした。会議後、見比べておりましたが、まず大綱の一番初めの、社会人になっても通用する問題解決能力の養成のところについては、10ページの基本目標1、確かな学力の定着の一番初めに問題解決能力のための授業づくりというようなお示しをさせていただくなどしてございまして、全然ずれているわけではございませんが、ここは、今日も含めて今後ご議論をいただくなどの内容になってくのではないかなと感じております。まだまだ案の段階で、いろいろご指摘をいただくことになるとは思いますが、どうぞよろしくお願いをいたします。

○加藤委員 13、14ページもコミュニケーションが抜けておる、気がついたのはその2カ所です。

○吉田教育監 ありがとうございます。

○葛西教育長 2つ提案があったかと思います。

1つは、具体的な施策がかなり入ってきていますけれども、この具体的な施策についてどうかということと、それから、午前中の総合教育会議との整合性、この2つの課題があるのではないかなと思います。

まずは、これをお読みいただいて、ご指摘いただくというようなことから入っていきたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。お願いいたします。

○加藤委員 前回、たくさんお願いをしましたので、ほんとうにすっきりしたと思います。非常に自然にすっと読めるようにしていただいて、よかったなというふうに思います。

そんな中で、例えばさっき教育監からご提案いただいたP8の基本理念ですが、つなぐことを記載してあって、非常にいいことだと思います。

それと、お願いになるんですけど、8ページの「輝く よっかいちの子ども」はわずか4行と。ここにやっぱりもう少し四日市の求める子どもの姿とか、「輝く よっかいちの子ども」に込める意味合いがもっとたくさんあったように思うんです。だから、ここはもう少し書いていただきたいことと、その書きぶりの中で、例えば11ページ、図示をいただきましたよね。これは、下からずっと積み上げながら、「輝く よっかいちの子ども」へ、目指す姿へアプローチしていくんですけど、ここの図の説明的なところも「輝く よっかいちの子ども」の中に少し書き込んでもらったら、この図が生きるかなというふ

うに思いました。

だから、そういう意味ではそれをしっかり書いてもらったら、10ページはなくてもいいのかなど。項目だけは要りますけど、また後ろにずっと出てきますので。8、9、10のスペースをうまく使いながら、4から「輝く よっかいちの子ども」の部分、そして5の施策の体系、ここにも6本の柱はあらわれていますので、これを述べながら、11ページの説明へ向かう橋渡しをこのあたりでしていただくと、11ページの図が非常に、誤解もなく、ビジョンとして示していけるのかなと思いましたが、一度ご検討いただきたいと思えます。

○吉田教育監 ありがとうございます。最初の説明の折にはお伝えをしましたが、今日の総合教育会議を受けてですが、やはり総合教育会議の教育大綱のことは、もう少しここを前へ書き込んで、なおかつ資料として後ろへつけるなりする必要が出てくるのかなということも思いました。

それから、もう一つは、教育大綱の最後のところ、これはご協議いただければと思うんですが、基本理念を実現するためという中で、教育大綱の中では、学習環境の充実や学校の施設設備など、子どもたちを取り巻く環境の充実に努めていきますと。その後、進捗状況云々という話がありましたけれども、この部分でいくと、11ページの図の中で、一番外側が地域とともにある学校づくりになってしまっているんですね。大綱との関係があって、5の教育環境の整備と6の地域とともにある学校づくりの部分はひっくり返したほうがいいのかとも思ったりもしています。

○加藤委員 この3つは、ほんとうは階層をなしていないんですよ。おそらく横にあるんです。だから、この図の工夫がもう少しあれば、今、教育監おっしゃられるようなことも解消できるのかな。このままずっと見てしまうと、まさに順序性があって、地域とともにという囲まれた中に教育環境の整備や教育力と、こういうふうに見えてしまうので、土台として3つが並列になるように表現していただいたら、そういう懸念はなくなるのではないかな。私もじっくり検討したわけじゃないんですけど。

○吉田教育監 私が思っていたのは、基本目標4と基本目標6はどっちかというソフトの部分で、5のところは完全にハード部分、政策的なものなので、並びがどうかという気もしないでもなかったんですけど、ただ、図の工夫によってそれは解消されるのではないかなということで、なるほどと理解させていただきました。

○葛西教育長 今日の総合教育会議の中で、教育大綱のつくりについても、1から5まで



それぞれ教育理念を並べてあったと。教育環境をしっかりとつくっていかうということで、一番最後に別でこれから四日市はこういう教育環境を整えていきますというふうなことで、そこに進捗状況のチェックというようなことも入れていただいて、そこで締めるというような形になっていました。そのことから言うと、教育環境の整備というのは、この位置ではやっぱりないということをはっきりしたんじゃないかなと思います。

○加藤委員 教育環境の整備というのは土台の部分ですよ。

○葛西教育長 そうです。それがわかるような図にさせていただけるといいですね。

○吉田教育監 図の構成に変えるということですね。

○加藤委員 あるいは、先ほど申し上げた前段部分で、文章でつないでいながらこの図へ持ってくるときに、教育監の疑問のようなこと、いわゆる教育環境整備というのは、四日市の教育の土台的な、基礎的な部分として捉え、そして、その上にソフトというのか、それはいろんな表現はあろうかと思いますが、そういうつなぎの文章があって11ページが出てれば、誤解なくこの図を理解していただけるのかもわかりませんよね。

○葛西教育長 ほかにいかがでしょうか。いろいろお気づきの点があろうかと思いますが。

○加藤委員 ほんとうにすっきりしました。ありがとうございました。

○葛西教育長 基本目標1の確かな学力の定着ということで、15ページ以降に書かれています。これは11ページに全体像がうまくまとめて整理されています。その中で、確かな学力という部分があって、この部分の中に3つ書いていただいています。

1つ目が、基礎的、基本的な知識及び技能。2つ目が、知識、技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力。3つ目が、学ぶことと社会とのつながりを意識しながら主体的に学習に取り組む意欲と態度。この3つを確かな学力の中では育てていきたいということでここに書かれていると。では、このことが、15ページから20ページの間でどう具体的に落とされているかという視点で見ると、例えば、17ページに少人数教育の効果的な活用とありますが、ここでは、基礎学力の定着を目指すというような範疇で書かれています。でも、やはりここで少人数教育の効果的な活用となれば、思考力や表現力、それから問題解決的な能力、そういうものも身につけていくような指導体制であったり、授業の工夫、そういうことをもう少しここに盛り込んでもらったほうがいいのかという思いは持ちました。

それから、学ぶことと社会とのつながりを意識しながら主体的に学習に取り組む意欲と態度、これも培っていくんだということで書かれておるわけですから、それを例えば問題

解決能力の向上のための授業づくりだとか、ICTを活用した教育の充実、発展だとか、あるいは先ほど触れた少人数教育で、どうやって学ぶことと社会とのつながりを意識させていくか、そういうところをもう少し書いていただけると、こうやってしていくのかということがわかるかなと思うんですけど、そのあたりはいかがですか。

**○廣瀬指導課長** 15ページ以降につきましては、各課で策定をしている中で、学ぶことと社会とのつながりを意識しながらという部分については、キャリア教育で後半に出てきてしまっているのもう一度、11ページや施策の体系のところ、基本目標の整理が、今日の総合教育会議での議論の中で整理された部分で集約をし直す必要があるのかなと思いますので、少しお時間をいただかないといけないのかなとは思っています。

**○葛西教育長** そうですね。基本目標2の豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成、この部分でも、例えば22ページの道徳教育、27ページの体験活動の充実、やはりこのあたり、非常に学ぶことと社会とのつながりの接点の深いところですので、そこをもう一步踏み込んで書いていただいたほうがいいのかなということも思いました。

**○加藤委員** 11ページの図の、教育長が指摘された確かな学力の下にぶら下がっている三角の項目それぞれが後からどこにも出てこないんですね。だから、ここと15ページ以下の連携が若干とれていないので、確かな学力と書くなら、基本目標の1だったら確かな学力の定着までやっぱり整合をとっていったほうがいいでしょうし。だから、図の中の言葉はここしか出てこないのも、ちょっとまだ検討が足りないのかもしれないかなと。

**○杉浦委員** わかりやすいとか体系的にと思ったときに、11ページ、思いがずっとキーワードで入っているんですけども、例えば確かな学力の定着としたときに、その下に例えば基本目標1とか、豊かな人間性とコミュニケーション能力、基本目標2というふうに記したり、理想は、その中のそれぞれの基礎的、基本的な知識及び技能、これを高めるための具体的なものがどれなのかというようなところまでほんとうはリンクをしていくと、今回立てたビジョンの中で、今現在でどこが手厚くて、どこが薄いのかとか、そういったところも本来であればわかりやすい。それぞれのものに対しての成果指標というものを何ではかるのかということまで一貫していると非常に評価しやすいのかなと思うんですが、そうなるで大分変わってきてしまうかなと。

**○加藤委員** いいところだけ残っているというところで、逆にこの中で整合がとれないというか、例えば、10ページの基本目標の2の中に①から⑥というのは、いわゆる現場で使う道徳教育とか生徒指導という言葉が出てきますよね。じゃあ、図の中にある5つの三

角印とどこがどう結びつくのというのは全くわからないことになってしまう。むしろ10ページを外すのなら、11ページの図の中にある三角印に具体的な手だてを以下ずっと述べていくと。基礎的、基本的な知識及び技能は、各教科の中でもあれば、いろんな場がやっぱり力をつける場として準備されてくると思うので。道徳教育、生徒指導、人権教育というくりの中で豊かな人間性とやってしまうと、図の中にある言葉が何とどう結びつくのという整合がとれにくいように思うんです。だから、もう一回検討をいただけたらいいのかな。

○杉浦委員 10ページは、第2章を読んでいくに当たって非常に整理しやすいので、あっていいのかなと思うんですが、外にもこれから出ていくに当たって、11ページのフローが、これらをするための重点的な取り組みが何なのかということの目次的なものになっていくようなページになるとよりいいのではないかというふうに思いました。

○松崎委員 私も初めてこういう細かい資料を見ていて、一体どれがどこに行っているのかというのがよくわからなくてかなり時間をとってしまったんですけども、やっぱり三角の部分、例えば健康・体力の中の基本的な生活習慣の確立という3つ目の項目が、実はめくって見ると、基本目標2の豊かな人間性とコミュニケーション能力の21ページに、「基本的な生活習慣を身に付け」というのが入っていたりして、ほんとうに交錯しているので、もうなければいけないんじゃないかなと思いました。あちこち交錯しているので、一体どちらの目標にくっついているんだというのがわからなくなったなと思ったんです。

○加藤委員 後ろはどちらかという和白書に連動しているのかな。だから、白書の項目で11ページ以降をひっつけようとするときちょっと無理が出てくる。かといって、11ページ以降をあまり変えてしまうと、白書とのまた連携がとれにくいところもあるので、その辺は難しいんですよね。

○吉田教育監 おっしゃるとおりで、白書は評価書のような形になっており、位置づけがありますので、施策としてどういうふうなことで進めていくかということは、そこで示す以外に手がありません。

それと、項目は、前にさかのぼって、確かな学力のところなどもあるんですけども、それを三角印のところまで改めて示しておいたほうがよりわかりやすいかなという部分でここへ示させていただきました。ここへそれぞれの施策の番号を付記したりすると、図が複雑、煩雑になってしまいます。

それと、先ほどご指摘いただきました点ですが、1つの切り口では切ってはいるんです

けれども、それ1つではおさまり切れない、他へ入ってしまうというのは、これはもういたし方がないかなと。これは密接に関係する部分もあるので、例えばコミュニケーション能力は1番のところだと思うんですけども、確かな学力も豊かな人間性も健康・体力についても、コミュニケーション能力というのは密接な関係があり、あえてこういうふうにまとめさせていただいているというところで、図をできるだけ見やすくするという効果をこっちは狙ったものですから、ご指摘の部分はどうしても出てくるかなと思います。

○加藤委員 かといって、具体的な施策なり手だてが書き込んでもらっていなかったらビジョンとしては弱いですしね。いっそ、14ページ以下も別取りでいこうかというのものはないんでしょうけど、下手に整合をとろうとすると無理が出ますからね。でも、10ページ、11ページまではかなりすっきりしました。ただ、今のところでちょっとつまずくと、言葉の問題で基本目標の細項目と図の中の細項目との整合をどうとっていくかというのはなかなか厄介ですよ。これと教育大綱とどうしましょうというところですね。だから、大綱にしてもビジョンにしても役割があるんだから、基本的なところは踏まえつつ、それぞれ独立していますよというののもあってもいいのかもわかりませんし、みんな大筋では筋が通っていないと困るんですけど、細部にわたって全部突合できるなんていうようなことにはなかなかできないですよ。

○吉田教育監 案を組み立てていく中では、やはりそのように私どもも感じる部分があって、今の教育大綱がもしあったとして、第2次教育ビジョンと見比べたときに、矛盾とまではいきませんが、不整合の部分は少なからずも出るのかなというような感じは受けます。

○加藤委員 だから、午前中に示していただいた大綱とビジョンとアクションプラン等の位置づけ、このあたりをきちっと踏まえてこれができるのであればなど。多少の言葉の不整合は避けて通れないと思います。

○葛西教育長 午前中で教育大綱の5つの理念がはっきりしてきましたが、それよりも先にこのビジョンについては考えてもらっていました。そのタイムラグがやっぱりあるということと、教育大綱があり、学校教育ビジョンがある。このビジョンの中に具体的な施策があると、やっぱりこの関連性、これをどなたが読んでもわかるような形にきちっとしていくことが求められることかなと思います。随分すっきりしたんですが、いわゆる頭の部分と手足の部分、それから、今日理念が出てきましたので、理念の部分との相関関係というところなどが工夫のしどころかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○加藤委員 当然、過去の歴史の中で、教育委員会としてはこのビジョンをトップに捉え

でずっと施策を展開していただいておりますので、それに後からいろんな要素が入り込んできて、それで一定の整合をとりたいとなると、ほんとうに第3次ビジョンは難儀なんですけど、ここですっきりしていただければ流れやすいですし、わかりやすいですし、施策も集中して打てるというよさもありますので、ご苦労ですけど、今日結論はなかなか出ないと思います。

○吉田教育監 できるだけそれに近づきたいと思います。

○加藤委員 でも、そういう視点でもう一度校正をかけていただくと、かなり筋がずっと通ってくると思いますので、ここからは指導課となってしまうと、実際に手がける指導主事は自分の分野で書いてしまいますから、大きな流れの図ぐらいは教育監でつくっていただいて、各担当に渡してもらって、ここは踏まえてくださいという注文でいかないと大変ですよ。

○廣瀬指導課長 私どもだけじゃなくて、各課がそろえていかないといけないので、教育総務課と調整しながら進めていければと思います。

○加藤委員 関係課長会を二、三回やっていただければ。

○杉浦委員 前回から、文章もそうですし、ビジュアル的なレイアウトや流れなども非常に読みやすくいいものにしていただいたというのが実感です。

先ほど、11ページにそれぞれの対応の施策番号ということも伝えたんですが、この三角は、あったほうが読みやすいし、私はいいと思うんです。一つ一つの三角に対して13ページの成果指標をすごく意識してピックアップしていただいております、例えば確かな学力だと、この3つに対してそれぞれ当てはまる成果指標を的確に選んでいただいていると思うんですが、その中で、豊かな人間性とコミュニケーション能力、これはこれから追加していただけるということだったんですが、健康と体力も1つずつ照らし合わせていったときに、上から3つはちゃんと対応した指標が選ばれているので、もしもあるのであれば、最後の自他の健康、安全について実践していく力、これもはかれる指標があると、この三角のつけたい力と成果指標が1つずつ呼応してわかりやすいのかなと思いました。

もう一点、12ページ、下の学校・園のところで、PDCAを書いていただいているんですが、マネジメントシステム、サイクルの文言が前後は出てきていなくて、PDCAサイクルの言葉が文章中に出てきていないので、おのずと説明文もないんですね。もちろん、見る人が見たらPDCAのことなんだなとわかるんですが、文章中であったり、どこかに正確な文言があったほうがいいのではないかなと思いました。

○葛西教育長 ほかにいかがでしょうか。指摘をしていただければ、また次までに工夫してきてもらえると思います。

○松崎委員 今回、学校の取り組み例というのをいろいろと書いていただいて、すごくわかりやすいなと思ったんですが、施策によっては多かったり少なかったりしていて、例えば37ページの教職員の資質、能力の向上のところ、前は多く書いてあったのを上手に3つにまとめていただいて、ちょっと少なくなっていたりはするんですけども、ぱっと見たとき、この取り組みはちょっと少な目なのかなとか、具体的に書いてあるなというところで、バランスがいいところ、悪いところがあったりするかなと思いました。

例えば、1つ中身で気になったのが、24ページの学校の取り組み例の自治意識を高める児童会・生徒会活動という言葉です。前回の案の中にはなく、今回出てきているんですけども、例として挙げるといっても、いま一つわかりにくい取り組み例かなという気がしました。今回、自治能力という言葉が豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成の中に入ってきていますので、そのためにこの学校の取り組み例が入ってきたのかなと思ったんですけども、もし書くのであれば、もうちょっと具体的にわかりやすい例が挙げればいいなと思いました。自治意識を高めるのは、当然今まで行われてきていますので。

○吉田教育監 最近、全国の各学校の研究テーマ等を見ていくと、どうしても学力というようなところに一辺倒になっているんです。ただ、やっぱり子どもたちに自分たちの学校は自分たちの手で作っていくという意識、そういう中でコミュニケーション能力をはじめ、お互いに理解し合いながら進めていくという力が非常に望まれているというところがありまして、キャリア教育の一環でもあるんですけども、この部分についてはもう少し丁寧に書かないといけないかもしれませんが、子どもたちのそういう部分で、与えられた部分で自分たちで与えられたことをこなしていくだけではなくて、創造的な活動を進めることによって、前進的な子どもたちの育成を図りたい、取り組みをより進めてもらいたいということで例として挙げさせていただいたので、これはまた工夫させていただきたいと思っています。

○葛西教育長 読んだ人にとって、そのようにイメージができるような文言でお願いします。

それから、やはり学校の取り組み例で多いところ、少ないところ、ちょっとアンバランスなところがあって、例えば、48ページ、四日市の持つ教育資源の活用、今日の総合教育会議でも一番議論になりましたが、この施策の内容というのはそれなりに書いていただ

いてありますが、学校の取り組み例が非常にあっさりした形で書かれていると。いろんなことを学校はしていただいておりますので、書きようがあるのかなと思いました。

○加藤委員 言葉の問題で、35ページ、36ページあたりに、学校運営と出てくるんですけど、この運営について、四日市はもう経営になっていませんか。一番上の枠内では学校経営と書いてもらってあるんですけど、4―①ではまた学校組織・運営の充実と、運営って使っていますよね。四日市の目指すところは経営ですからね。

○葛西教育長 目標を持って運営していく、それが経営というふうなことになると思いますのでね。

○杉浦委員 言葉というところで、先ほど教育長がご指摘された、最後の48ページですが、午前中の総合教育会議では地域資源という言葉でしたね。市民の方にしたら地域資源なんでしょうけど、今まではどうなんですか。教育資源というと、学校の先生であったり、校舎であったり、そういったものがみんな入ってくるのかなと。

○加藤委員 その中に地域の文化も入りますか。

○杉浦委員 地域資源には文化も入りますね。なので、地域資源を教育資源に生かすというような表現は使うと思うんですが。

○加藤委員 文化は入ったほうがいいのなら、今、委員がおっしゃるような言葉のほうが適切かもわかりませんね。学校は結構そうやっていますね。お年寄りから話を聞くことも地域の文化の原点でしょうから。

○杉浦委員 となると、地域資源ですね。

○葛西教育長 今日のところはこの程度でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 第3次学校教育ビジョンの議論については、この程度としたいと思います。